

「どうして身体が大きいのにお母さんと学校に行っているの？」これは母が近所の人に言われた言葉です。妹は知的障がいがあり、我が家では妹が母と一緒に通学することは当たり前のことでした。近所の人はそのことを知らなかったのかも知れません。

しかし、母はこの言葉でその道を通るのを嫌になったのです。私はその話を母から聞いて、とても悲しい気持ちになりました。その言葉をかけた側の人は、家庭の苦勞も何も知らないからそういう想像力の無い言葉を平気で言えたのでしょう。私はこの事を通して知らないということは人を傷つける可能性があることに気づかされました。そして、私も知らないうちに人を傷つけてしまうことがあるかもしれないと思うと怖くなりました。目の前の出来事を自分のものさしで言葉を発するのではなく、相手の事を想像して思いやりのある言葉選びをすることが大切です。私は小学生の時に集団でいじわるをされた経験があります。その経験は昔のことだけど、今でも鮮明にされたことやあびせられた言葉やその時いじわるをした人の顔を思い出します。思い出す度にその時の辛さや苦しさが蘇るのです。ずっと心に傷が残ってしまうようなことや言葉が現実にあるのです。人はそれぞれ育った環境も積み上げてきた経験も違いますが、どの言葉で傷つくかも人それぞれ違うので、軽く言った一言だったとしても心に刺さって傷つく人もいます。だから、簡単に自分の考えを押し付けたり否定的な言葉を言っただけではいけないと思います。また、自分では解決できないことや悩んでいる時は人を頼ることが大切だと感じています。

私は悩んでいる時期に部活の先生に相談し、先生も幼少期にいじめられた経験があると教えて下さいました。私の話を親身になって聞いてくださって、心がとても楽になりました。友達に相談した時も、私もいじめられていたことがあると言ってくれた人がいました。

悩んでいるのは自分だけではないんだと安心し、心が救われました。皆言わないだけで何かを抱えて生きていると思いました。友達の中には私の妹より重い障がいのある家族がいると教えてくれた人もいました。その時私は一人じゃないと思いました。きっと、その友達も同じことを思ったと思います。

人は自分と同じような経験を持つ人の話を聞くと自分だけではないという安心感と共に勇気を得ることができると思いました。人はどうしても辛い時や苦しい時、こんな思いをしているのは自分だけだと思ってしまうことがあります。でも実はそうではなくて、周りの人にも自分と似たような思いをしている人がいると思うと気持ちが楽になります。妹の学校の生活発表会を見に行った時、障がいがある人も力を合わせて頑張る生徒の姿に感動し、元気をもらいました。妹の同級生は桜梅桃李でみんな輝いていました。桜梅桃李とは仏法用語で桜、梅、桃、李の各々の花がそれぞれの時期に咲き、全ての花に良さがあるという意味の言葉です。生活発表会を見て、体が不自由でもみんなとても楽しそうでキラキラしていて、「みんな違っていいのだ」と改めて思いました。一緒に発表会を見に行った父は「先生が発表を見ながらずっと涙を流していたのが一番感動した」と言っていました。支える方の情熱は心を動かします。

私も人の目を気にしたりせずに強く生きていこうと思えました。また、私が通う学校の近くにある支援学校と学校間で交流会をした時、上手く交流ができるのか不安だったけど、支援学校の生徒さんや先生方が私たちを温かく迎えてくれ、一緒にダンスをしたり、画用紙で作品を作ったりして楽しい心の交流ができました。どんな人とも優しい心があれば楽しく交流できるのだと痛感しました。私は妹を見ている中で、障がいがあるのは可哀想なことではないと感じています。世の中には障がいのある人や病気を患っている人などたくさんの方がいます。その人も周りの人からサポートをしてもらいながら生きています。それはその人の個性で、否定していいものではありません。それは妹の存在があったおかげで胸を張って言えます。私も昔は妹はどうして障がいがあるんだろう、普通じゃないんだろうと思ったことがあります。しかし、それは知らないうちに妹を他の人とは違うと差別しているということに気づきました。私は皆、障がい者になる要素を持っていてそれが大きい小さいかの違いだと思います。障がいや病気がなくても苦手なことや不得意なことがあると思います。反対に、障がいや病気があっても得意なことやできることがあります。だからそれを自分にしかない個性ととらえ、周りの人の個性も認め、支え合えればより良い社会にしていけると思います。

最後に、私が経験した全てのことが私の人生でとても大切にかけがえのないものだと思います。なぜならそれらの経験があればあるほど、人の気持ちがわかる人になれると思うからです。私は障がいがある妹のおかげで障がいについて深く知ることができました。また、いじめを受けた経験から

いじめられた人の気持ちがわかるようになりました。誰もが生きやすい社会を作るためにはまずは自分が知らないことを積極的に知っていくことが大切だと思います。まだまだ知らない障がいや差別問題などがあるので、これからたくさんのことを学んでいきたいと思います。そして、私がたくさんの人に助けられたように今度は私が誰かを助けられる存在に成長していきたいです。